

第7回きたひろしま都市型観光推進協議会 議事要録

- 1 日時 平成28年2月29日(月) 18時30分から20時00分
- 2 場所 北広島市役所第3庁舎3階 会議室
- 3 出席状況

NO	氏名	職業等	出欠
1	上原康雄	北広島市観光協会会長	欠
2	山崎悦子	北広島商工会会員(行政書士山崎法務事務所)	出
3	千葉隆一	札幌ゴルフ倶楽部 支配人	出
4	石塚正敏	札幌北広島クラッセホテル支配人	出
5	(副座長)川口満久	ホクレン農業協同組合連合会統括マネジャー	出
6	中村哲	三井アウトレットパーク札幌北広島所長	出
7	(座長)吉岡宏高	札幌国際大学観光学部国際観光学科教授	出
8	三浦麻衣	市民(会社員)	出
9	善甫啓太	市民(会社員)	出
10	吉田智樹	北広島市経済部商業労働課課長	出

きたひろしま都市型観光推進協議会事務局

所属	役職	氏名
経済部商業労働課	主査	山田 基
	主任	青木 潤

傍聴者

人数
0人

4 議事録

1. 開会

事務局) お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。第7回北広島市都市型観光推進協議会を開催させて頂きたいと思います。

座長) 皆さん今晚は。前は12月3日ということで年末に開催となっておりますが、協議会も発足から2年程経過し、そろそろどういう部分を柱にした方が良いのかという段階にきたのかなという印象を持っております。事務局の方も最初は固かったのですが、段々と柔らかくなってきて、コンセプトから中身を考えていくと言った流れに、近づいていただいているように思います。

そして、我々が出してきた意見を事務局で少しずつ整理していただき、纏めていただいております。

今回、ご意見をいただいた上で、これを最終的な資料として形にしていきたいと思っております。後は3月に一度、最終系のもを皆さんに確認いただき、中締めとしてさせていただければと思っております。

事務局で再度、たたき台としてコンセプト案を作っておりますので、資料の説明をお願いします。

2. 議事

事務局) 資料説明

前回、資料の説明の際に、1頁の方向性から2頁目への各ジャンルへの繋がりが分かりづらいという指摘がありましたので、流れとして把握しやすくなるように再作成しました。

資料枚数は前回の2枚から今回は3枚となっております。

先ず一枚目。

都市型観光の方向性について(案)ということですが、背景の表記は前回と変わりません。また、コンセプト①～④も変わりません。

- ① 「何でも体験・体感できる、北広島で北海道の良さを味わう」
- ② 「いつでも楽しめる、どこでも行ける北広島」
- ③ 「ゆったりとした北広時間を楽しむ」
- ④ 「温故知新を体感する」

このページの変更点は、右側にある“まるかこみの3つ”で表記した部分です。ここは前回も説明しましたが、取り組みに関係する企業、団体や市民などの関わりが、分かり辛いというお話がありました。そこで、このページに概念として表記しました。



取り組みにあたっては、色々な方が複雑に関わるようになりますので、項目ごとに誰が実施するといった纏め方を止め、「企業・団体との連携」と「市民力」が合わさり、「都市型観光を育む」といったコンセプトとして掲げてみました。

続けて二枚目。こちらは今回初見となる資料となります。

コンセプトは4つあるのですが、そのコンセプトを実現するために5つの取り組みをジャンル分けしております。二枚目は、この4つのコンセプトに5つのジャンルを重ね合わせた資料となります。

コンセプトが4つ。

- ① 「何でも体験・体感できる、北広島で北海道の良さを味わう」
- ② 「いつでも楽しめる、どこでも行ける北広島」
- ③ 「ゆったりとした北広時間を楽しむ」
- ④ 「温故知新を体感する」

ジャンルが5つ。

- A 「北広島でアクティビティ！」
- B 「ゴルフアーズパラダイス北広島！」
- C 「北広島時間で御もてなし！」
- D 「北広島を知る観光！」
- E 「サイクルタウン北広島！」

まず、①「何でも体験・体感できる、北広島で北海道の良さを味わう」があり、左に、②「いつでも楽しめる、どこでも行ける北広島」があります。この重なり合うところに、「北広島でアクティビティ！」のジャンルが入ってくる。このアクティビティは、①と②の重なりあっているものと考えております。

そして、③「ゆったりとした北広時間を楽しむ」と①が重なるところには、「ゴルフアーズパラダイス北広島！」とさせていただきます。ゴルフ銀座の北広島で、北海道を味わい、そして時間をくつろぐというイメージです。

そして、④「温故知新を体感する」と③が重なるところに、「北広島時間で御もてなし！」ということで、ゆったりとしたスケジュールでの贅沢な北広時間を過ごしてもらおう、といったイメージで掲げました。

そして、②と④が重なるところに、「北広島を知る観光！」というのをイメージしてみました。

また、これらの取り組みを囲むように、上から下の方に、各ジャンルを繋げ、囲むように矢印が書かれておりますが、自転車による繋がりをイメージして表記しました。その結び付きを「サイクルタウン北広島！」として、各ジャンルに関わってくると同時に、これらを支える上でも必要なものと考えております。これについては、あえて外出しに表記してみました。

続けて三枚目。前回の資料とほぼ同様のものです。

各ジャンルの5つを掲げ、●で補足的に副題を書き込んでいます。「サイクルタウン北広島！」については、「サイクリスト・ゲートウェイ・北広島」を追記しております。北広島がサイクリングに当たったの玄関口となるようなイメージを持たせるために追記しました。その他は、表現を若干修正していますが、

内容はほぼ変わっていないものとなっております。

以上、簡単ですが、資料のご説明とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

座長) はい、有難うございました。前回から1枚が加わってということでした。今日はこれを基に、足し算引き算をできればと思います。ご意見はいかがでしょうか。

○委員会からの意見

- 工場などの施設見学に良いところがあるといった意見があったと思います。入れた方が良くと思います。工業団地はガチガチの固いイメージがあるが、見学するとソフトになるように気がしません。
- 温故知新は「寒地稲作発祥の地碑」と「クラーク記念碑」以外に何があるのでしょうか？これしかないのであれば、工業団地の方が良いのではないのでしょうか。他市に誇るほどのものではないような気もしました。
- 古いものについては、行政としても市民に伝えきれていないところもある。例えば島松軟石というものがあります。札幌軟石もありますが、北広島の三島地区で使われたものは島松軟石です。以前に JR 北広島駅東側には農協の倉庫がありましたが、それは島松軟石で造られていました。また、その近くには島松軟石の建物は今も残っており、そういったものも市にとって貴重な資源と思っています。三島地区に行くと、軟石の家などが残っています。千歳川ではその昔、物資を運ぶ船着場がありました。そこは今、防災センターとなっています。当時は、長沼方面や江別方面に物資を運んでいたようです。これらのことを市民に伝えていかなければならない。これらの事は市民が分かっていないと、まちを出たときに伝えることができない。船着場はどこか？とたずねられても、北広島には無いと答えると思いますし、そうすると、そこで終わってしまう。
- 工場もそうですが、どんな工場があるの？と聞かれた際に、誰でも、あそこに〇〇があるなどの説明ができるようになっていけばと思います。そういう意味でも、「市民力」を付けていくというのがベースになるのではと思います。
- 工場見学だと楽しそうに思います。船着場については、そこからどこかにいけるのであれば良いですが、ただ、そこにあったということだけではどうかと思います。軟石そのものではなく、それで何かを造ったりして、それが可愛かったりすれば広がっていくように思います。
- そこに何か歴史的な裏付けがあるのが大事になります。脈絡もなく存在するのではなく、背景として歴史があって、生きてくると思います。
- 市民大学のOBが作った資料をお持ちしました。今、お話がありました軟石についても掲載していて、これらを巡るコースなども紹介しています。こういったものを現状では活かしていない。OB会も色々なグループがあり、自然観察、北広島昔ばなし、歴史を歩く、市内の石碑の拓本を作るといったグループもある。これらのグループの中で終わってしまっている。皆さんが楽しんでやっているの、これらのことが外に活かせるのではないかと考えています。
- 市民大学のOBも相当数の方がいらっしゃると思います。その方々をどのように繋げていくかが

課題だと思えます。

- 稲作と言っても地味と言われそうですし、分かりやすすくないと受け入れが難しい。
- ゴルフ場には年間40万人程度の方がいらっしゃいます。キャンプ場が8千人ぐらいの来場があります。輪厚地区は休日に多くの方が来ています。
- 規模こそ小さいですが、北広島には大体のものがああります。自然もある、ちょっとした都会もある、ゴルフもある、そして歴史もある。

座長) 工場見学については、明確になっていませんね。工場見学は「北広島を知る観光！」になるように思えます。

自転車自体も「ジャンル」になりますが、北広島の歴史を知るという時には「手段」にもなる。自転車は少し毛色が違うものなんでしょう。

今お話を聞いていると2つのことが分かっているというイメージを持ちました。一つ目はBtoBというもの。ある程度一般化されて、誰でも分かる物。それともう一つは、市民のこだわりとか、或いは、ちょっと視点を変えて、コアな、またはニッチな部分でいったもの。例えば、軟石といっても誰も関心を持たないですよ、という話題も、あるところでは、物凄い関心ごとになっている。例えば、石倉をデザインしたマグネットとかを軟石で作ってもらおうと結構売れるんです。石山以外にも島松にもあるということで、話しが広がっていく可能性があります。細いものでも束ねれば太くなるという考え方も一つだと思います。これらの好きなものが集まってくると束になる。市民対市民。CtoCみたいなイメージです。誰もが関心を持っているわけではないけど、集めてみたら、それなりのボリュームになる。

温故知新という一般的なには駅通とクラークぐらいしか思い浮かばないが、ここのポイントは、光の当て方をどうするのかということだと思います。例えば、“交通の変遷を辿って歩く”といったものは、面白いと思います。弾丸道路、駅通、国道があり、また、旧千歳線などを自転車で巡る。交通という切り口は見所があるように思います。また、私はゴルフをしません、庭園として見た場合、こだけゴルフ場があり、誰が設計して、それぞれ違いがあり、どういう背景でこのゴルフ場は出来ている、といったことで、ガーデン、パークとして見せていくと、それらの学会の方が来たり、その様な見せ方ができるのではないかと思います。クラッセホテルやくるるの杜に来る方に比べて、対象者はそんなに多くはないですが。そのあがりの流れを作っていくと、一般的に入りやすくなると思います。そして、「実はこんなものもあります。」というものが伝えることができれば良いと思います。

○委員会からの意見

- 市民に「北広島は何も無い」、「何があるの?」と言わせないために、軟石なら軟石という様に、一つずつ生み出す必要があると思います。市外から来た人にも、こんなに素晴らしく、綺麗なもの、といった様に伝えることができる。一つ一つ磨いていっても良いと思います。
- 市民力ということですが、市民自体が知らないことがある、それをどの様にして知ってもらうのか。市外の方に知ってもらうためには、先ずは市内の人に知ってもらう必要があると思います。

この様な資料が出来てきて、今後はどの様に具体的に進めていきたいと思いますかという段階に進んでくると思います。

- 今までゴルフについては観光としての取り組みはしていませんでしたが、次年度はインバウンドを対象としたゴルフツーリズムを計画しております。
- 北広島ゴルフ場は会員制というところもあるので、中々難しいところもあります。会社登録が多くありますので、難しい面もあります。
- 北広島ならではの、自然、アクティビティ、ゴルフなど資源をしっかりとPRしていくところが異論は全くありません。ただ、民間目線となりますが、“新たな顔”であったり、“多面性”というところをPRしていくネタはあるような気がしてしまっています。アウトレットであれば、“観光型アウトレット”と謳っている。国内・インバウンドからのウェルカムということを徹底的に訴求していこうというのが施設のテーマとなっています。
- 工業団地。生産拠点。造って終わってしまうだけでは、もったいない。石屋製菓さんも、白い恋人パークでデモンストレーションをしながら製造工程を見せているのが、インバウンドなどに評判となっている。それと違う形であったとしても、生産が見えることによって、観光を切り口にしたようなPRすることによって、人が集まったり、活性化するような気がします。こちら側から働きかけを行うことで、デモンストレーション型の生産拠点があるということが出来る可能性もあると思いますし、PRになると思います。そのことにより、それらの施設と相互連携などでも出来る可能性が広がる。
- 今、観光客の求めているもののキーワードが、“話題性”、“参加型”、“体験”、“楽しさ”、“B級グルメ”などがある。フードコートを利用する方が多くて、B級グルメゾーンのように楽しんでいるようです。
- エーデルワイスファームがやっているイベント“フロンティアフェスタ”は多くの方が集まっている。今回、バスを相互送客して効果があった。生産しているところで、話題性が付加されて、人が集まってくる。この北広島にはポイント、ポイントにあるように思います。ただ、楽しさや可愛らしさなど、PRの仕方で変わってくると思いますが、それをどのようにやっていくのか。歴史をしっかりと伝える、自然の資源を伝える、新たな楽しみ方を伝える、これらのPRとして付け加える必要がある。
- 折角このように、形になってきているので、市民、観光客にも分かってもらうように、ホームページを立ち上げるといった情報公開も必要だと思います。この情報を見ると、北広島の観光の切り口がすぐ理解できるなど。紙だと変化があると更新しなければならないが、SNSやホームページに更新していくことで伝えることができる。
- エーデルワイスさんのイベントは、確かに質の高いグルメが集まる、素晴らしいイベントだと思います。一般的なお祭りとは違い、一品一品がお値段も高めなんですけど、売切れてしまう。やはり質が良いので、多くの方に喜ばれていると思います。
- フィールドクラブさんは、ものづくりの会社として、お店のデコレーションなどを行っています。そして、最近操業した彩香さんでは、ローソンのお弁当などを作っています。また、北広島はアクセスが良いので、物流系が多くありますが、何か観光に結びつかないかを考えていました。

座長) 今、ここに無いのが、それでは誰がどの様にやっていくのか?ということだと思いますし、まだ欠けている部分だと思います。例えば、このメンバーの中で、これとこれは集まった方々で出来てしまうねと言ったこと、或いは、これは〇〇さんが「私がやりますよ」と言った様になれば、話しが進みますね。OB会でやってみようとか、そんな流れができればとも思っています。

行政側には、今後、これらの議論してきた経過を基に事業についてチェックを行っていただきたいと思っています。この資料が施策を進める上でのポイントとして頭に入れておく必要があると思います。ある意味、ネタとしてあるものとなります。

工場見学については、物流関係は面白いのではないのでしょうか。また、先ほど、白い恋人のお話が出ていましたが、音更帯広 IC に柳月があります。あそこはどうして人が集まるかと言うと、三方六の切れ端なんです。これだけで人を集めているような、昼過ぎには無くなるようです。

ちょっと光の当て方を変えてやってみるというのが必要ではないかと思っています。

○委員会からの意見

- 方向性はこのようなイメージで良いと思います。後はどのようにやっていくかということだと思います。今、三井アウトレット、くるるの杜、ゴルフ場など、沢山の方が来ています。相当数が来ているということは、その方々に、しっかりPRできれば、良い方向になると思います。
- 私は以前から自転車についてお話させていただいておりましたが、美唄市が先を越して色々やっている。具体的に何か今までやってきたことを変えてみるとか、何か訴えていけるように、今まで議論したことが活かせるよう、私もお手伝いしていきたいと思っています。サイクリスト・ゲートウェイ・北広島。これは私もイメージしているのですが、千歳などが本気を出すと取られてしまうように思います。そうなる前に、ここが拠点にならないと実現しないと思います。早くアクションを取らなければ、気がついたら周りもやっていたといったことではダメだと思っています。実現できればと願うばかりです。
- 協議会でお話したことが、このままで終わらないように、何か一つ、世に送り出せるようなものができればと思います。
- 情報発信ということで、今、テレビの媒体などによるPRも考えています。テレビ関係者にすると、アクセス性が良く、使いやすいようです。また、フィルムコミッションといった、撮影場所に係るセールスなどもできないだろうかと考えております。

座長) テレビのPRはこの資料の中のどこに入るのでしょうか。ここにないものを行政がさばいていくと、人的にも厳しい中で、やっていくというのは、本来の姿ではないように思います。そうならないために、この資料があるわけです。

先ほど、お話が出ていましたが、今、北広島には多くの方がいらっやっています。PRするのはいいですが、それに対応できていない。行政は先ず増やそうとする。来たものを今は料理できない実情があります。そこは良く考えて取り組むべきですし、ここを切り分けて考えていかないと、同じことの繰り返しとなってしまいます。

自転車の駅やサイクリングロードの撮影であれば良いと思います。この資料の取り組みに関わるものであれば問題ないと思います。ただ、ロケに来てくださいというのはNGです。最近は映像が多チャンネル化され、すぐ消費される。昔のようなロケが行われて、そこが長い間、人が集まっていくようなケースは少なくなってきました。

○委員会からの意見

- サイクリングについてお聞きしたいのですが、自転車で市内を巡るといものと、自転車が好きな方が北広島に来るといものは別なものとして考えているのでしょうか。エルフィンロードを走っている方は、自転車が好きな方が多いと思うのですが。
- 私は自転車に乗らないのですが、そんなに乗れるのでしょうか。
- エルフィンロード以外にも、団地内にも自転車道路があります。
- 海外からも組み立て式の自転車を持ち込んで旅行されている方もいます。自転車には荷物を多く積めないで、一括して荷物を預かったりすることで、人が集まってくることになると思います。施設としてどうするのかということもありますが、拠点、ゲートウェイというのはそういう意味だと思っております。

事務局) サイクリングを通じて、市内を巡っていただき、観光施設やグルメを楽しんでもらうというイメージです。今も観光協会で行っていて、自転車が好きな方が多く参加いただいておりますが、市内の巡っていただくことで、北広島を知っていただき、観光として楽しんでいただいております。ただ走るだけの楽しみではなく、そこに観光の要素を入れて、楽しんでいただいております。

エルフィンロードは東札幌から北広島に繋がっているので、多くの方が利用いただいております。北広島は比較的道路が広いので、そこを上手く使ってコース設定していきたいと思っております。また、北広島から空知方面に行っていただくことも想定しております。拠点として機能できればと思っております。

自転車を車に積んで搬送したり、JRで運んで来た場合に、北広島で組み立てて、ここから各方面、或いは市内を巡ってもらうなど。

座長) 自転車は二面性があると思います。自転車が好きでここに来る人。そして、移動の手段としての自転車。レンタサイクルなども必要となります。大きく分けて2つの取り組みの切り口があるように思います。「北広島時間」や「北広島を知る」というのを組み合わせるということになります。サイクリングを楽しむ方は自転車がメインですが、それ以外の人は「北広島時間」や「北広島を知る」がメインなので、それを支えるための手段として自転車がある。目的と手段ということで、変わってくるため、二つの要素があります。ここの表現を上手くする必要があります。

○委員会からの意見

- ゴルフ場に来るお客さんは、他の観光施設を知っている状況にありません。中々説明し辛いというのがありますが、地図も分かりやすいのが無かったりする。そこが上手くできると良い方向に向かうと思います。
- お話を聞いていると、光の当て方で、色々と変わって見えてくるという部分があると思いました。何か形にしていく必要もあると思いました。

座長) 三枚目は具体的にやること書かれています。上からA~Eを付けた場合、A・B・Eは、早くやらないと先を越されてしまう。北広島は知名度が無いので弱い。千歳の方が勝っている。ですので、自分たちのオリジナリティをいかに出していくのか、そしてシステムがポイントとなります。例えば荷物は北広島で全て預かりますというサービスがある、或いは、ここにすれば面倒な手続きはないといった、他との違いを明確に出すことが必要だと思います。一連のシステムを早く整備する必要があります。これで勝負するというのが良いと思います。

例えば、ゴルフや自転車などでシステムを構築すると良いと思います。

そして、誰がやるのかというところ。

C・D、これはセットで展開する必要があると思います。今まさに、沢山の方が来てしまっているところを何とかしなければならぬ。それから、色々あるところを、角度を変えて光を当てる。沢山の人をどうするのか、というところは、クラッセホテル、三井アウトレットパーク、くるるの杜などで上手くやっていくと進んでいくと思います。まさにこの協議会を切欠に、3社がお茶を飲むといった関係からスタートしていくと、事実上のスタートとなるように思います。

個人ベースでいくと、ちょっと小粒だがキリリと辛いというものを、やってしまう。知ってからスタートしましょうといっても、中々進まない。先ずはやってしまうということも必要ではないかと思えます。走り始めて、後から他も付いてくるというようなイメージ。自分が好きなことができるというのが、大きなモチベーションとなります。好きな人同士を糾合して、役所がそこをバックアップしていく。そして手段として、E(サイクリング)を絡めていく。

交通、工場、そして北広島団地などは私はやってもらいたいと思いますが、何でもネタにあると思えます。

後は誰が行うのか。これで終わるとここでストップしてしまう。表現の仕方とともに、ここが今回の宿題となります。そして、皆さんからいただいた意見を入れ込む、また、サイクリングを少し切り分けて、丁寧に書くことも必要だと思います。後は最終まとめにしてもよろしいでしょうか。

○委員会からの意見

- サイクリングでも、歴史でも良いのですが、お客さんが見て帰ったら、それで終わってしまいます。お金を落としていただくと、どこかが潤うと思います。歴史を見て帰ってしまうと長続きしないと思います。ただ来てもらうということだと、やり方も違ってくると思えますし、そこを確認させていただきたいと思えます。

- 観光といっても経済に繋がっていかねばならないと思います。経済活動に結び付けていくようにしていかなければならないと思います。やはり、お金が落ちていくというのもイメージが必要。
- 民間ベースではバスなど既に連携していたりします。それで役所が入ってくるとすればプラスαがないと意味がないので。それに期待するのは民間ではできない部分です。非常に大事な部分だと思います。
- どこか観光で訪れて感動すると、何か買って帰りたくなる。そのように考えると、経済に関係がないとはならないと思います。
- 北広島を知ってもらうツールとして観光がある。そして、そのことによって経済活動や定住に結びつくものと思います。

座長) 恐らく、お金だけではないと思います。B to Bのところ、Cだけでやっていくこと。展開をしていくこと。それで市民がやっていることが、企業のビジネスにも繋がっていくし、企業の皆さんがやることで、市民は接点を持ちやすくなることもある。恐らく両方のことだと思います。

メインはまちの経済のためにということですが、それが100%かということ、そこはバランスを取っていかねばならないと思います。観光は手段であって、感謝の報酬をもらうなど、自分が気付かない視点を教えてもらったなど、両建てだと思いますし、そこは行政がバランスを取る必要があります。

工場観光などもそうですが、サッポロビールみたいに来れば来るだけ効果がある。ものづくりの面については、行政の方がまちづくりの側面から支援していただいた方が良く、バランスを取ることが必要で、この資料はそれを判断する材料となります。

何も買わなくても、何かSNSに北広島のことを書き込まれ、それによってタイ人がいっぱい来るようになったと。それでは稼げませんが、巡り巡って、稼ぎに繋がっていくような可能性はあります。特にインバウンドでは起きてきています。

是非、視点を長くして取り組んでいった方が良くと思います。

市外の方に良いまちですねと言われて、改めてまちを見返してみるということで、市民が観光客に応じてあげる、或いは親切にしてあげたいといったベースに繋がっていく。それが結果として、稼ぎに繋がっていく。

○委員会からの意見

- B to Bのところであれば、行政は今まではあまり入っておらず、他人まかせのようにイメージでしたが、これからは何らかの形で行政ができることはやっていかねばならないと思います。ただ突然何かできるというの難しい。
- 先ほどお話がありましたが、市民大学のOBの方に協力をいただけないかと思いました。私は北海道観光マスターの資格を取ることができたのですが、北広島独自の観光ガイドの検定のようなものがあれば、私も是非チャレンジしたいと思っております。少子高齢化の中で、市民大学のO

Bの方のお力をお借りした方が良かったと思います。

座長) 稼げるところは稼いでもらい、より稼げるように環境を整えるところが行政ですし、稼ぎと関係ない方に観光に関わってもらう機会、切欠をつくり、サポートしていくのも行政ですし、その間をいかに取り持っていくのかも行政のまた大事な仕事です。行政の役割として、この3点になろうと思います。それをやっていくために行政はドキュメント主義ですので、このような資料が必要となってきます。

実際、これから具体的にどのようにやっていくのか。これは今日の宿題となりますが、この会議を切欠に、事実上の繋がりができて、始まっていくということが行政側でサポートしていくことが必要ですし、これを具体化していくのも行政の仕事となります。

それでは今回いただいた意見を事務局で取りまとめいただき、次回、皆さんで確認していきたいと思っています。よろしくお願いします。

3. 閉会